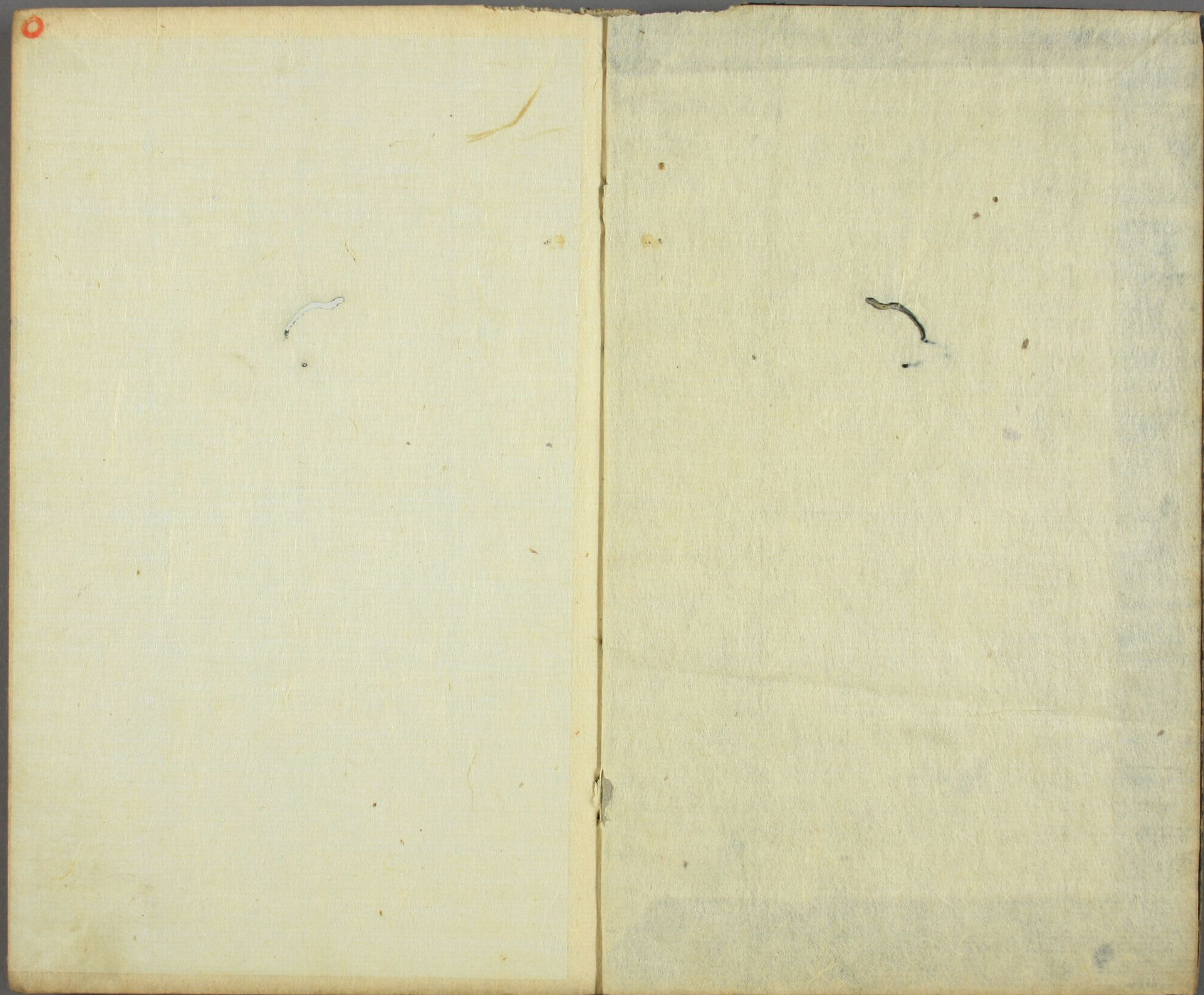




海
一巻下





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the right page of an open book. The script is dense and fluid, characteristic of early modern Japanese calligraphy. There are some small annotations or corrections interspersed within the main text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column on the left page of an open book. The script is dense and fluid, characteristic of early modern Japanese calligraphy. There are several small annotations or corrections interspersed within the main text, including the characters "母上" (Mother), "異字" (Different character), and "被殺" (Killed).

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference mark.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference mark.

のほろこしりすももさびしゆくも^{父を慕ふ}
 花鳥^{はなとり}まじりたりとあひわらば^{ハルカク恋ふる}
 成のゆかりたりとあひわらば^{今昔をしのびて}
 のほろこしりすももさびしゆくも^{おのれの}
 花鳥^{はなとり}まじりたりとあひわらば^{おのれの}
 成のゆかりたりとあひわらば^{おのれの}
 のほろこしりすももさびしゆくも^{おのれの}
 花鳥^{はなとり}まじりたりとあひわらば^{おのれの}
 成のゆかりたりとあひわらば^{おのれの}
 のほろこしりすももさびしゆくも^{おのれの}
 花鳥^{はなとり}まじりたりとあひわらば^{おのれの}
 成のゆかりたりとあひわらば^{おのれの}

おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}
 おたまたまなほりてあひわらば^{おのれの}

おたまたま

おたまたま

徳川家系のお国はまよひもあつて
あつておらぬと申すはまよひもあつて
あつておらぬと申すはまよひもあつて

おまの針糸

おまの針糸

奥列へくだりて

まに水やまよひもあつて
まよひもあつて

秋名

秋名

奥列へくだりて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

まよひもあつて
まよひもあつて

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

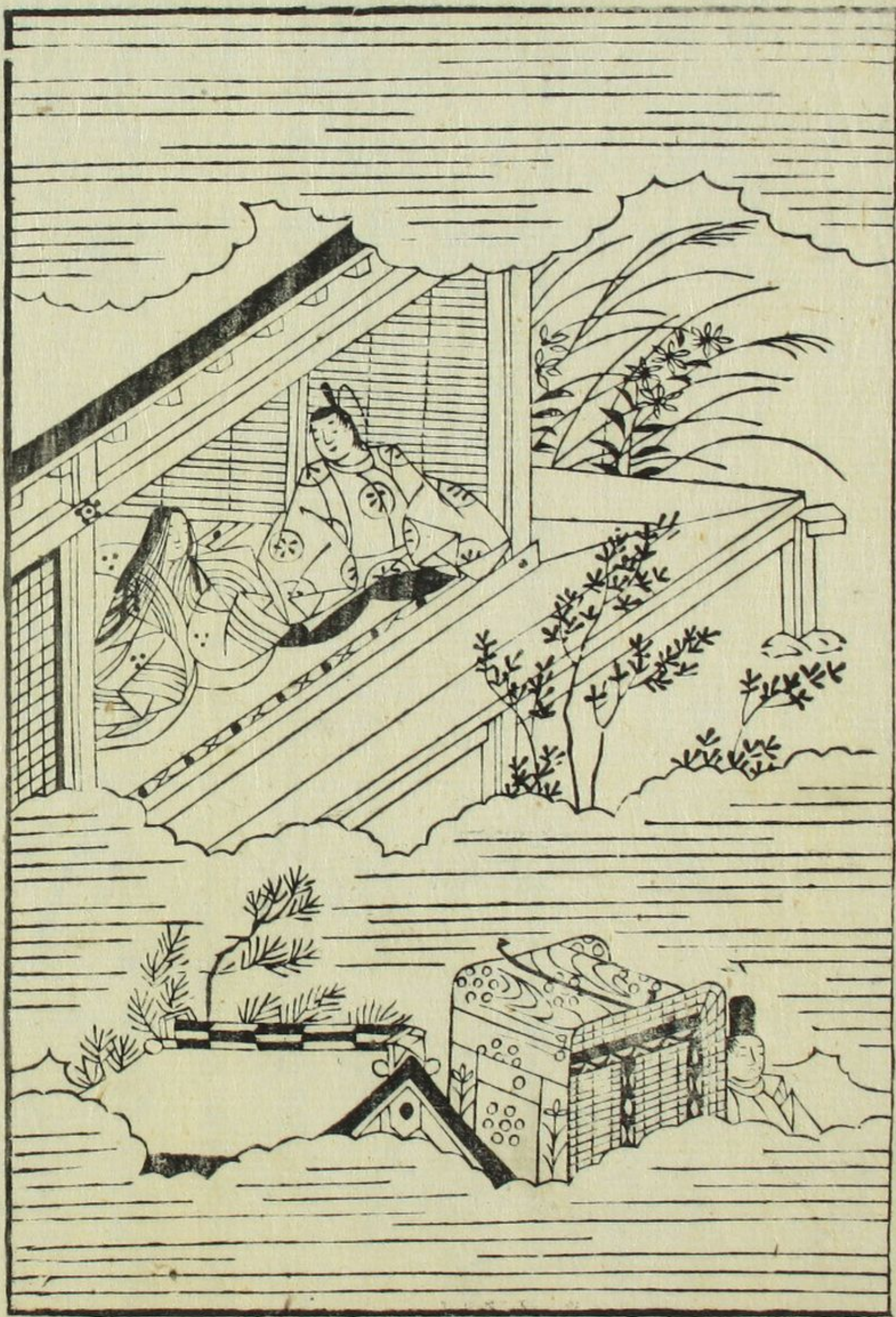
一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

さいのりやいよまたまのひりぞきまのりきりまのり
 しほのりたるまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 てもまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 りまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 路のりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 行りまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 むまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのり
 下國のりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのり

あげくまのりまのりまのりまのりまのり
 乃如方あまのりまのりまのりまのり
道成トム 式部の大捕まのりまのりまのり
 むまのりまのりまのりまのりまのり
 しうのりまのりまのりまのりまのり
 ぐれまのりまのりまのりまのり
 け女まのりまのりまのりまのり
 ぶまのりまのりまのりまのり
 びまのりまのりまのりまのり
 又おまのりまのりまのりまのり
 ぶまのりまのりまのりまのり

あはれなる御心御座りませうと申すに
いふはなれども
英名おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す
おひらきしる御心御座りませうと申す

んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す
んがの心御座りませうと申す



例のうらぐくさり姑ひそけが所へにあり給ひて
 まゝ一由が後を紛るゆゑにその女は我こそとて
 一あるをさへかよふとの申しあはけぬくころは
 とおもひつらちぞくうをぬきこれあるにける様もど今
 ぞめでたき世はしざりけりうらけりもあるとされ
 何うゆきすかきとさへさへ給ひとてそはなるも
 いらしてはとてあふらさるる女

あきとて思ふことありあはれこの世はだも死
 ろみまゝのひととみまゝにあらはるるに
 ろりもあはれなるるは死のしりぞける
 又いふとてあはれなるるは死のしりぞける
 又いふとてあはれなるるは死のしりぞける

あふみのをりてまゝに世なむそとたてのまの光もみはるる
 りけりけるりたるを思ふははるるまの光もみはるる
 小みりけるりたるを思ふははるるまの光もみはるる
 懐妊^こを思ふははるるまの光もみはるる
 ようちを思ふははるるまの光もみはるる
 つまを思ふははるるまの光もみはるる
 物も思ふははるるまの光もみはるる
 からんを思ふははるるまの光もみはるる
 おはるるまの光もみはるるまの光もみはるる
 を思ふははるるまの光もみはるる
 の思ふははるるまの光もみはるる

^{新古今和歌集}
 あふみのをりてまゝに世なむそとたてのまの光もみはるる
 りけりけるりたるを思ふははるるまの光もみはるる
 小みりけるりたるを思ふははるるまの光もみはるる
 懐妊^こを思ふははるるまの光もみはるる
 ようちを思ふははるるまの光もみはるる
 つまを思ふははるるまの光もみはるる
 物も思ふははるるまの光もみはるる
 からんを思ふははるるまの光もみはるる
 おはるるまの光もみはるるまの光もみはるる
 を思ふははるるまの光もみはるる
 の思ふははるるまの光もみはるる

新古今和歌集

三十三

おまけの筆で書かれたもの
乃のめし終らんよもきりおちり終らん
とれたものもよもあかしく那と先のものも
乃のめし終らんよもきりおちり終らん
ゆりもよもきりおちり終らん
ひはあかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく

おまけの筆で書かれたもの
乃のめし終らんよもきりおちり終らん
とれたものもよもあかしく那と先のものも
乃のめし終らんよもきりおちり終らん
ゆりもよもきりおちり終らん
ひはあかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく
あかしくあかしくあかしくあかしく

花の舟

機軸の回り

杖

女の車

武官



舟

舟

舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて
 舟の船に乗りて

舟

舟

さいのちびら
 めくしんし
 かりしよら
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが

さいのちびら
 めくしんし
 かりしよら
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが
 さうが

後

(Faint bleed-through text, likely from the reverse side of the page)

(Faint bleed-through text, likely from the reverse side of the page)

あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
ふもちあまてあまはじんあまの川とある
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
海海まてはあひや入あひや入てあまの川ひさうせし
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ

んも今もわつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ
あまのつらんうゝいよるひさうせししん又つ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of characters. There are small annotations in the left margin, including the characters "母の扶養" (Mother's support) and "誕生" (Birth). The text appears to be a record of a birth or a family event.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of characters. There are small annotations in the left margin, including the characters "秋の" (Autumn) and "誕生" (Birth). The text appears to be a record of a birth or a family event.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or a reference mark.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or a reference mark.

面は人なれりあらしてしるべき事なくくもるしるるる
のきくしるべき事ありとにせりしらん人はかきまきふ
しきもちり又これ深風フカカゼ言ぬ言ひ天と口ととさるんて海
へおもむきおもむき死せる森よ女君の奇なりおもむきしんとて
いふかきしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる
はらぬいのちおもむきしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる
はらぬまうにんれと海とにあらうる死くふ女おうけ坊
どうくしてふおもむきしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる
らんとらんしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる
よらんしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる
ふ人おもむきしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる道成

うらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは
あまうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは
けいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけいけい
あうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは
海はうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは
女房むすめあまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは
あうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは
しきくしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる道成
きくしるるる事ありしらんふもおもむきしるるる道成
とあうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまはうらまは

